

温州ミカンの含核について

中牟田拓史・江原忠彰（佐賀県果樹試験場）

NAKAMUTA, T. and T. EHARA : Seed Formation of Satsuma Mandarin

近年、温州ミカンから中晩生柑橘類への更新が、急速かつ盛んに行われ、これらの品種も開花結実期を迎えるようになった。そこで、その周辺の温州ミカン果実の含核果の増加が懸念されたので、その実態を調査した。

1. 試験方法

調査場所……場内及び生産者の中晩生柑橘類と混植または隣接した温州ミカン園

混植または隣接した中晩生柑橘類……花粉を生じる栽培品種（八朔・宮内伊子柑・甘夏）

対照区……温州ミカン園の周辺に、他の柑橘類のない所の自然結実及び人工授粉した果実

2. 調査結果

1) 自然状態での含核果率は、周辺に花粉を生じる品種がなければ、早生温州では皆無に近く、普通温州でも1～2%で、老令樹がやや多い傾向にあった。

2) 人工授粉を八朔・宮内伊子柑・甘夏などの花粉を用いて行った結果、早生温州で50～70%、普通温州で100%近い含核果率を示したことから、近くに花粉を生じる品種があれば、自然状態でも含核果の発生は、かなり多いものと思われ、特に普通温州は、その傾向が強かった。

3) 各中晩生柑橘類と混植または隣接した温州ミカンほど含核果率が高く、今回の調査では、早生温州が4～6%、普通温州が8～31%で、更新園と温州園の間が遠ざかるほど低かった。しかし、各場所とも、普通温州の含核果率は早生温州のそれより顕著に高かった。

4) 含核果実の1果当り種子数を、中晩生柑橘の種類や更新園と温州園との距離別にみた場合、早生・普通温州とも差がなく1～3個位であった。一方、人工授粉したものは、早生温州の1～3個に対し、普通温州で5～7個位と極めて多く、自然状態でも、十分に花粉がつけば、普通温州の種子数はかなり多くなると思われた。

5) 傾斜園（階段畑）で、上段に花粉を生じる品種がある場合、その下段の温州ミカンの1樹冠内における含

核果の分布は、花粉を生じる品種がある側が多く、また、樹冠上部が下部より顕著に多かった。

6) 温州ミカンの含核は、開花期間中の園の環境や管理の状況などでかなり異なった結果を示すと思われるが、以上の試験結果から、普通温州は、早生温州より品種更新や栽培管理において、十分な配慮が必要である。

第1表 対照区の含核数

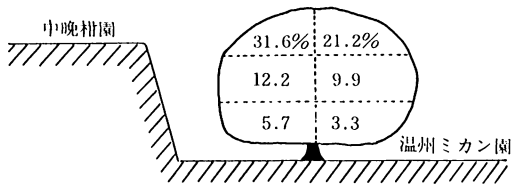
温州の品種	人工授粉用の花粉親	調査した温州					
		地区(系統)	樹数	果実数	含核果数	含核果率%	含核果の1果平均種子数
早生温州	—	A(井関)	3	316	2	0.6	1.5
	—	B(宮川)	6	380	0	0	0
	八朔	A(井関)	1	40	28	70.0	2.6
	宮内伊子柑	"(")	1	25	15	60.0	1.6
普通温州	—	B(林・松田)	6	449	4	0.9	1.3
	—	"(伊木力)	6	552	12	2.2	3.6
	八朔	A(松田)	1	138	135	97.8	6.8
	宮内伊子柑	"(")	1	85	84	98.8	5.9
	甘夏	"(")	1	175	169	96.6	4.9

第2表 自然結実果の含核数

隣接園	調査樹との定植距離m	地区(系統)	調査した温州				
			樹数	果実数	含核果数	含核果率%	含核果の1果平均種子数
(早生温州)							
八朔	7～8	C(宮川)	5	273	14	5.1	1.6
	15～20	"(")	5	290	2	0.7	2.0
宮内伊子柑	混植	B(山崎)	10	649	27	4.2	1.9
	10～20	"(")	5	145	2	1.4	3.0
	20～30	"(")	5	296	2	0.7	1.0
甘夏	3～4	D(宮川)	5	291	17	5.8	1.6

(普通温州)

八朔	4～5	C(松田)	5	323	101	31.3	2.8
	10～15	"(")	5	320	45	14.1	2.1
宮内伊子柑	混植	B(伊木力)	5	211	17	8.1	1.9
	10～20	"(")	4	121	8	6.6	1.5
	20～30	"(")	6	252	9	3.6	2.1
甘夏	3～4	D(伊木力)	5	439	109	24.8	2.0
	10～15	"(")	5	308	20	6.5	2.1



第1図 中晩柑園下の普通温州の含核果の分布